



# 山口宇部 医療センター だより



当院自慢の緩和ケア病棟付近の桜並木です。(なお、新型コロナの影響で、受診等以外のご来院を制限させていただいています。)

## 理念

患者の権利を尊重し、最新の医学知識に基づく医療を提供します。

## 基本方針

1. がん、呼吸器疾患の専門病院として、高度で専門的な医療を提供します。
2. 重症心身障害児(者)の専門施設として、きめ細やかな医療と療育を提供します。
3. 十分な説明と同意に基づいた患者中心の医療を実践します。
4. 臨床研究を推進し、医学の進歩に貢献します。
5. 地域医療連携に努め、医療従事者、地域住民の医学教育、研修を行います。



独立行政法人 国立病院機構

## 山口宇部医療センター

山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

〒755-0241

山口県宇部市東岐波685番地

TEL.0836-58-2300(代)

FAX.0836-58-5219



<http://www.yamaguchi-hosp.jp/>



# 内科系診療部長 就任にあたって

内科系診療部長 近森 研一



この度池田顕彦先生が退職され、その後任として内科系診療部長に就任いたしました。すでに青江啓介内科系診療部長が内科診療を統括しておりますので、私はその補佐を行いたいとおもいます。しかし私には電子カルテシステムの運用と内科医師教育を任されておりますので、これらについては実務責任者として主体的に携わっていきます。電子カルテシステムは皆様への医療に直接関わるものではありませんが、医療行為を安全に間違いなく適切に行うには必要不可欠なものです。質の高い医療を提供することは電子カルテシステムの運用と深く関わって

います。今後もさらに医療の質を上げていくようにシステムを調整していきたいと思えます。医師の教育は短期的に当院の医療の質を上げていくこととなります。それだけにとどまらず、若い医師を教育し、彼ら彼女らが他の医療機関で勤務しその知識や技術を役立ててもらえれば中長期的にも地域医療の質を向上させていけるものと考えています。私は一人の腫瘍内科医師として担当する患者さんへはもちろんのことですが、電子カルテシステムを通じた病院運営の改善や医師教育を通じて地域住民の皆様によりよい医療を提供していきたいと考えています。

## 令和3年 新任医師・職場長等紹介



緩和ケア内科医長・緩和ケア科

竹内 愛

(たけうち・かな)

- 日本緩和医療学会緩和医療専門医
- 日本内科学会認定内科医
- 日本消化器学会専門医

平成8年に医師となり、消化器内科医を経て、緩和ケア医となりました。どうぞよろしくお願い致します。



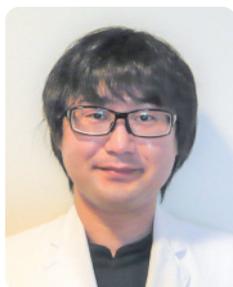
呼吸器内科医師・呼吸器内科

兼定 晴香

(かねさだ・はるか)

- 内科学会認定内科医

愛媛県出身で、この度山口に初めて移住してきました。前年度までは松山赤十字病院で呼吸器内科として仕事をしておりました。趣味は料理で、日々のごはんやおやつを楽しみに生活しており、毎日次は何を作ろうかと考えています。また2歳になる娘がおり、慌ただしくも楽しい毎日です。何もかもが新しい環境ですが、新鮮な気持ちで頑張りたいと思えます。



呼吸器内科医師・呼吸器内科

村川 慶多

(むらかわ・けいた)

平成29年に山口大学を卒業後、済生会下関総合病院で2年間初期研修を行い、再度母校に戻り2年間勤務しておりました。住み慣れている、お世話になった宇部の地で診療を行えることに喜びを感じております。これからの診療で恩返しができるよう尽力いたします。よろしく申し上げます。



小児科医師・小児科

脇 和之

(わき・かずゆき)

- 日本小児科学会専門医

防府市出身で、前任地は長門総合病院です。旅行が趣味ですが、ここ1年半くらい県外に行けてないのが残念です。入院患者さんが快適に過ごせるよう努めていきたいと思えます。



看護部長

**中本 佳子**

(なかもと・よしこ)

この度、福山医療センターより2年ぶりに帰って参りました看護部長の中本と申します。

周防灘の鮮やかな海と満開の桜に迎えられてとても心が穏やかになりました。呉市(広島県)で育った私にとって海を見ているだけで気持ちが癒されます。

この度、責任ある立場となり身の引き締まる思いです。地域の皆様に信頼される病院を目指し、患者さんへの思いやりとその人らしさを大切にされた看護が提供できるように微力ながら尽力して参りたいと思います。ご指導、ご支援のほど宜しくお願い致します。



薬剤部長

**原 太一**

(はら・たいち)

4月1日付けで松江医療センターから昇任で参りました薬剤部長の原です。

中国5県は全制覇し、山口県は2回目の25年ぶりとなります。直近の2施設が一般が呼吸器メインと重心もあり、当院と似通っているところがあるので、これまでの経験を生かして、医療安全第一で、薬剤部のスタッフと相談しながら業務の効率化や経緯削減等で、皆様からのご指導等を頂戴しながら病院の力に微力ながら貢献出来たらと考えておりますので何卒よろしくお願い致します。



企画課長

**村上 孝次**

(むらかみ・こうじ)

この度4月1日付で、広島西医療センターから赴任して参りました村上孝次(むらかみこうじ)と申します。

当院は初の勤務となりますが、妻の実家が東岐波であり、また妻が長らく当院検査室で勤務させていただいていた事もあり、この病院、この地域に愛着を感じています。

医療を取り巻く環境は厳しさを増すばかりですが、病院運営、地域社会における病院の役割に微力ではございますが、少しでも貢献できるよう努力していきたいと考えています。



療育指導室長

**中谷 あさみ**

(なかたに・あさみ)

この度、柳井医療センターより配置換えとなりました、療育指導室長の中谷と申します。当院へは

4年前まで勤務しており、今回2回目の勤務となります。4月1日は桜並木と青い海の絶景を久しぶりに鑑賞でき、心躍りながらの着任となりました。コロナ渦の今、ご家族との面会など様々な制限がありますが、きらら病棟の方々が療育や行事、日中活動を通して楽しい日々を過ごしていただけるよう、多職種連携を図り、寄り添いの支援をしていきたいと思ひます。よろしくお願い致します。



2階病棟看護師長

**武原 幸子**

(たけはら・さちこ)

この度2階外科病棟に配属になりました武原と申します。

私は新人の頃からこの宇部医療センターで育てていただき昇任で関門医療センターに転勤致しました。10年ぶりに帰ってまいりましたが、変わらず温かい諸先輩方、元気で優しいスタッフ、また海と桜並木の風景に迎えていただき、皆様に貢献できるよう尽力したいとの思いを強く致しました。スタッフ一同しっかりと連携し、よりよい医療看護を提供し当院の理念であります『地域の皆様の健康保持増進』を現場で実践していきたいと思ひますので今後ともよろしくお願い致します。



外来看護師長

**岡崎 亜由美**

(おかざき・あゆみ)

この度岩国医療センターより4月1日付けで転勤してまいりました外来看護師長の岡崎亜由美と申します。

着任した日の満開の桜と美しい海の景色に心を奪われ、山口宇部医療センターのすばらしさを実感しています。緊張していましたが医師や看護師など職員同士もアットホームな雰囲気ですととても安心しました。

行き届かないところも多いと思ひますが、患者さんやご家族に寄り添い安心して治療受けられるよう山口宇部医療センター職員の一員として頑張りたく思ひます。よろしくお願い致します。



## 病院と共に ～永年勤続表彰～

国立病院、国立病院機構へ入職以来、病院運営、医療を長きに亘り  
誠実に勤務された節目の20年目、30年目の職員へ表彰を行いました。  
当院の中心的な役割を担うスタッフであり、今後も患者に寄り添う医療、  
看護の提供に努めてまいります。

企画課長 **村上 孝次**  
(むらかみ・こうじ)

前職は郵政事務官(郵便窓口勤務)でしたが、わずか3ヶ月で仕事を放りだし辞めてしまいました。その後の仕事も長く続きませんでした。そんな私が30年間も勤務を続けられたのは、ひとえに国立病院機構が前歴、学歴、年齢に関わらず「努力した分だけ評価してくれる」組織であったことです。「そんなの当たり前」と思われるかもしれませんが、それができる公的組織は本当に少ないです。もちろん旧態依然とした制度も少し残っていますが、前向きな考えをきちんと評価してくれる国立病院機構を選んだことは、自分の人生のなかでも最良の選択だったと思っています。

看護師・**西田 庸子**  
きらら東病棟 (にしだ・ようこ)

このたびは、勤続20年の表彰をいただきありがとうございます。就職当初は看護師としても未熟で、子供も小さかったため、毎日余裕なく忙しく過ごしていたことを思い出します。現在、その子供達も就職し看護師として働いています。今思うのは、家庭では両親の支えがあり、職場では患者様からの感謝の言葉や同僚のフォローなどがあって、いろいろなことが乗り越えてこれたと感じています。

これからも日々感謝の気持ちを忘れずに、患者・家族から信頼され、同僚や医師からは頼りにされる看護師として山口宇部医療センターを盛り立て頑張りたいと思います。

看護師・**瓜生 涼子**  
きらら東病棟 (うりゅう・りょうこ)

この度は20年の永年勤続表彰を頂き、ありがとうございます。これまで勤めてこられたのは支えていただいた諸先輩方や同僚、多職種の皆様と家族の協力があったることと感謝の気持ちでいっぱいです。結核病棟をはじめ、呼吸器内科、重症心身障害児者病棟・通所で様々な経験をさせていただきました。

これからも初心を忘れることなく、自己研鑽し、患者・家族に寄り添った看護が提供できるよう日々精進していきたいと思っております。

# がん検診・医療機関受診控えからの負の連鎖を断ち切ろう

副院長 腫瘍内科 前田 忠士

2020年から現在に至るまで、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、多くの方々の命が奪われました。日本でも米国や欧州に比較すれば感染者数、死亡者数は少ないとはいえ、多数の命が奪われました。

新型コロナウイルス蔓延下にあった2020年は、感染した場合に重症化リスクの高い高齢の方、基礎疾患のある方ががん検診・医療機関への受診控えが著しい年でした。

日本対がん協会からの報告では、2020年1月から7月の間のがん検診受診者数は前年までの50%以下に激減していました(1)。検診控えのために検診で発見されるはずの早期がんが他臓器へ転移して進行がんになってしまった方もいるのではと懸念されます。

がんの診断が3ヶ月遅れると多くの癌腫で10年生存率が10%以上低下することが英国から報告されています。肺がんも3ヶ月の診断の遅れが10年生存率に影響を及ぼす癌腫です。(表1)。

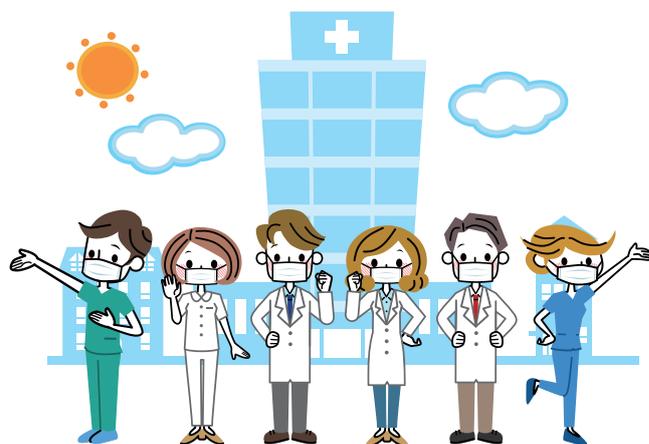
住民検診としての肺がん検診や、低線量CTによる肺がん検診などを定期的に受けられることが肺がんの早期発見、外科手術につながり、長期生存が期待されます。肺がん検診を控えていた方は是非受診してください。

山口宇部医療センターでは多くの肺がん患者さんをご紹介いただいておりますが、2020年は、例年と比較して、症状を自覚されてからも医療機関受診を長期にわたり控えられた方が多く見受けられました。

受診控えの間に肺がんが進行し、体力低下をきたし、標準的薬物療法(従来の抗癌剤・分子標的薬剤・免疫治療薬)を受けることができなかつた方も少なくありませんでした。

進行肺がんに対する薬物治療の進歩は著しく、10年以上の長期にわたりがん細胞を抑え込むことができています。そのためには、治療開始時に体力低下をきたしていないことが大切です。血痰、胸部痛などの症状が見られた場合は受診控えをせず速やかに医療機関を受診してください。

多くの病院では、新型コロナウイルスの感染対策をしっかりと行っています。個人でも3密を避ける、手指消毒を心がける、マスクを着用するなど対策をされたうえで、安心して医療機関を受診しましょう。2021年は受診控えからの負の連鎖を断ち切りましょう。



(1)アストラゼネカメディアセミナー 2011年11月30日 表1: 3ヶ月の診断遅れによる10年生存率の低下

発症年齢と10年生存率の低下率%						
	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	≥80歳
肺がん	16.87%	18.26%	16.80%	15.37%	11.78%	6.70%
胃がん	18.58%	18.54%	18.03%	17.34%	16.11%	8.85%
結腸直腸がん	10.22%	11.38%	10.82%	10.59%	13.10%	16.36%

(Lancet Oncol. 2020; 21: 1035-1044)

## 当院の呼吸器外科の特色について

外科系診療部長 井野川 英利

当院呼吸器外科は肺・縦隔の良性・悪性腫瘍、転移性肺腫瘍、感染性肺疾患の手術療法、自然気胸、膿胸などの良性疾患の手術療法を行っています。手掌多汗症に対する胸腔鏡下交感神経焼灼術も対象を選んで行っています。低侵襲手術を積極的に取り入れており、肺癌に対する手術の約9割を胸腔鏡下手術で行っています。

当院の術式はモニターを対面倒立式で3ポート(傷が3カ所)の完全鏡視下手術を採用しています。最近さらには低侵襲を追求した2ポートや1ポート(単孔式)の手術を徐々に導入しています。

肺癌の手術に関しては、進行癌や術前抗がん剤治療や放射線治療後に行う手術では開胸手術を行う場合もあります。適応があれば気管支形成や血管形成を伴う手術や他臓器合併切除を伴う拡大手術も行っています。

当院で治療実績の多い、胸膜中皮腫に対する手術も診断目的の生検から根治を目指した胸膜外肺全摘まで幅広く行っています。

術後の治療は放射線科、腫瘍内科と連携し放射線治療や抗がん剤による術後補助化学療法を行っています。

本年度より岡山大学 呼吸器外科医師の週1回の診療支援も始まり、肺移植に関するご相談なども幅広く受け付けています。



3ポートの手術



私たち栄養管理室は“食”を介して患者様の治療に関わっている部門であり、チーム医療の一員として、給食提供という側面と臨床に於ける活動の側面を担っています。

給食提供業務としては、安全で栄養バランスがとれた、おいしい食事を提供することを根底においています。

一般病棟では病状に合わせた食事、食生活の見直しや改善に繋がる食事、治療に起因する食思不振への対応食等に取り組んでいます。

また入院中に少しでも季節や食の楽しみを感じて頂きたいと思い、「行事食」、「季節食」、「選択メニュー食」等、変化のある献立を取り入れています。

重症心身障害児(者)食では食事を刻んだり、すり潰す等の「形態調整食の安定」は最優先事項ですが、治療食の提供もあります。基本を守りながら、「行事食」「季節食」の他にやきそばやラーメン等、新しい献立も取り入れています。

長期間当院で過ごしておられる利用者様が殆どであり、各個人への食事に関する指示は様々なものがありますが、できるだけ対応することを心がけています。

また病棟行事の日の昼食には、見た目に楽しく、どの形態の食事でも皆が同じものを食べられるように工夫した、手作りのデザートを提供しています。



緩和ケア  
病棟行事



選択メニュー食



行事食

ひなまつり



土用丑の日

臨床に於いては、管理栄養士が栄養指導・栄養相談の他にも多職種から成る医療チームの一員として活動しています。

以下、管理栄養士が回診に参加しているチームについて簡単に紹介します。

## ❖NST(栄養サポートチーム)

栄養評価を行い検討し、対象者に最もふさわしい栄養管理法を指導・提言するチーム

## ❖緩和ケアチーム

つらさや痛みを専門的に治療するチーム

## ❖褥瘡対策チーム

褥瘡に対する治療、予防のための活動をしているチーム

## ❖摂食嚥下チーム

摂食嚥下機能低下時の対応や機能回復に取り組んでいるチーム

管理栄養士が病棟で食事対応を提案した内容や、医療チームのなかで食事の対応が必要とされた内容は給食提供に反映されます。給食提供と臨床活動は、どちらが欠けても成り立たないものです。

“食”は各人にとって積み重ねてきた歴史の上に存在するものであり、味や好みも千差万別ですが、増してや疾病の治療中に入院という閉鎖的な空間のなか、給食という形式で食事を提供している訳ですから、患者様がご自宅で食事をされているようには行き届かないことも多く、申し訳ないと感じています。

しかし今後とも微力ながら、食事に関する問題解決の糸口となれるよう、真摯に“食”に向き合っていきたいと思っています。よろしくお願い致します。



# 外来診療担当医表

令和3年5月1日 現在

診療科	概要	月	火	水	木	金
内科新患外来		青江 啓介	前田 忠士 村川 慶多	山本 佑	兼定 晴香 藤井 哲哉 原田 美沙	角川 智之 久本 優佳里
内科紹介外来			亀井 治人	亀井 治人		亀井 治人
内科			石田 浩一			石田 浩一
呼吸器内科		坂本 健次 伊藤 光佑 兼定 晴香	恐田 尚幸 松田 和樹	恐田 尚幸 末竹 諒 松田 和樹	大石 景士 村田 順之 伊藤 光佑	末竹 諒 村川 慶多
腫瘍内科	抗がん剤治療 肺がん等	前田 忠士 近森 研一	青江 啓介 宇都宮 利彰	近森 研一	前田 忠士 宇都宮 利彰	青江 啓介
画像診断科	画像診断等		松本 常男			松本 常男
呼吸器外科新患外来		井野川 英利		沖田 理貴	岡田 真典	
呼吸器外科・外科	肺がん	沖田 理貴 岡田 真典		井野川 英利 岡田 真典	井野川 英利 沖田 理貴	
乳腺・消化器外科	胃がん・ 大腸がん等	平澤 克敏		平澤 克敏 (午後のみ)		平澤 克敏 (手術で不在の場合あり)
循環器内科	心臓・高血圧等	佐伯 幸男		佐伯 幸男		
緩和ケア内科	※完全予約制	小笠原 啓子		竹内 愛	竹内 愛	
放射線科	画像診断・ 放射線治療等	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎
小児科	障害児外来 ※紹介予約患者のみ 診察			奥田 裕美		沖野 文子
精神・神経内科	てんかん等	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘

※下記診療科は入院患者のみ診療

消化器内科	内視鏡等		山本 直樹			
整形外科	リウマチ・骨粗鬆症等					今城 靖明
歯科			中島 大輔	竹縄 隆徳		
耳鼻いんこう科				竹中 裕紀		
神経内科				押部 奈美子		

① 外来受付時間: 午前8時30分～11時30分 【外来診療開始時間: 午前8時45分～】

※内科新患外来: 午前9時30分～11時00分 / 内科紹介外来: 午前9時00分～11時00分

② 再診の予約受付は、医療事務室までお問い合わせください。

③ CT及び核医学(シンチグラム)の外来紹介は、地域医療連携室(内線2452)までご連絡ください。

患者紹介に関するお問い合わせは、地域医療連携室まで



地域医療連携室

受付時間 / 毎週月～金曜日まで 8時30分～17時15分

TEL(0836)58-4100 FAX(0836)58-2938